

秋田県のリンゴにおける重要害虫

大隅 専一
秋田県果樹試験場

リンゴにおいて使用基準上の適用害虫は重複もあるが 48 種ほど記載されているが、秋田県において主な防除対象としているものはモモシンクイガ、ハマキムシ類（ミダレカクモンハマキ、リンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキ）、ハダニ類（ナミハダニ、リンゴハダニ）、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、アブラムシ類などがあり、近年発生が目立つものあるいは注意を要するものとしてリンゴワタムシ、ナシマルカイガラムシ、カメムシ類等があげられる。また、ヒメボクトウも今後の注意が必要である。

今回は、これらの中でも特に重要と思われるモモシンクイガとハダニ類について発生状況や防除の問題点などについて述べる。

○モモシンクイガ

果実を直接加害するため、古くから農家が最も防除に気を遣う害虫である。通常の発生状況は、被害が認められる園地はほとんど見られない。しかし、近年は放任園や防除不良園などの隣接園での発生が目立つようになっており、被害が突発的に多くなることも時折見られている。

生態は年 1 ～ 2 回発生で、秋田県では県南部、県中央部は 2 化型主体で（越冬世代成虫：6 月 1 半旬～ 7 月末、第 1 世代成虫：7 月下旬～ 9 月上旬）、県北部は 1 化型が主体である（6 月中旬～ 9 月上旬）。

防除は県南部では多くの場合 6 月上旬のネオニコチノイド剤＋ 6 月下旬から 7 月上旬の合成ピレスロイド剤となっているが、近年は温暖化のためか、成虫の発生時期の早まりや産卵可能期間の長期化などにより、合成ピレスロイド剤 2 ～ 3 回使用の園地もある。

○ハダニ類

本県南部はナミハダニの薬剤抵抗性が高度に発達している地域で、殺ダニ剤の選択や防除時期に苦労している。また、使用される薬剤の変遷にともないハダニ類の発生状況も変化が見られる。平成 28 年度の秋田県の農作物病害虫・雑草防除基準に採用されているリンゴでの殺ダニ剤は 12 剤あるが、特にナミハダニに対し効果が安定している剤が少ないため、防除を組み立てるための剤が不足している。

本年度新剤を 1 剤採用したが、既存剤に作用点が同一の剤があるため、剤の種類としては増えていない。また、今後新剤の登録が数多く望めないため、既存剤の寿命を延ばす防除体系や薬剤に頼らない防除体系を確立する必要に迫られている。

Major Pests of Apple in Akita Prefecture

Senichi Oosumi

Akita Fruit-Tree Experiment Station